

ふるさとの人・もの・ことに進んで関わり、未来を切り拓く子供の育成

1 はじめに

(1) 実践の目的

寺家校区は、滑川市の中央部に位置し、立山連峰に源を発する早月川によって形成された扇状地左岸にある商業、住宅地域である。地域のお年寄りと交流する「握手の集い」、伝統芸能を伝え継ぐ「新川古代神」、祭礼後の「ごみゼロ活動」、国指定重要無形民俗文化財「ネブタ流し」等への参加を通して、地域の一員としての所属感を深め、自分たちが暮らす地域のよさがある。

このようなふるさとの人・もの・ことに自ら関わる学習を通して、ふるさとに愛着をもち、高い志や意欲をもつ自立した人間として、新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きていくために、希望をもってふるさとの未来を創造していこうとする子供の育成を目指す。

(2) 実践の内容・方法

寺家校区、滑川市について設定した探究課題を追究していきながら、以下のことに取り組んだ。

- ・寺家校区、滑川市の自然や施設、文化等のよさがあることやそこに関わる人々が存在することを知ることによって、地域の人々の努力や地域に対する思いを理解し、感じたこと、考えたことを発信する。
- ・まちづくりの工夫や地域の環境問題等と自分の生活とのつながりを考えたり、商いの仕組みを調べ、実際に体験したりする。

2 活動の実際

学年ごとに地域に関わる探究課題を設定し、課題の解決を通して地域を深く知り、愛着をもってふるさとの未来について考えるようにする。

(1) 第3学年 総合的な学習の時間「寺家の町のおすすめをしようかします！」

① 目指す子供像

自分の思いをもち、人や自然事象とのかかわりあいを大切にしながら、課題に進んで取り組む子供

② 活動の概要

社会科で学習した内容を踏まえ、「寺家校区のおすすめは何か」と、子供たちに投げかけ、寺家校区の特長について話し合う機会をもった。学習して分かった寺家校区の特色やよさについて話し合い、おすすめしたい場所を出し合った。その後、おすすめしたい場所について家族に尋ねたり、見学してより知りたいことについてインタビューしたりした。調べた情報をまとめ、整理し、寺家校区のおすすめを保護者に発表する機会をもった。

③ 子供の反応

実際に見学し、行田公園等にみられる自然やホタルイカ加工工場、多くの人々が利用するほたるいかミュージアム、市民交流プラザや児童館等の施設のよさに気付くことができた。また、見学箇所では、自分のおすすめ場所を探そうと もっと知りたいことや疑問点を質問したり、実際に茹でたてのホタルイカをおいしく味わう機会も得たりして、ふるさと滑川の特産を五感で感じ、身近に感じる事ができた。3年生がまとめた「寺家校区のおすすめ」は以下である。

- ・おすすめは、「ほたるいかミュージアム」です。ホタルイカのこと分かるし、テラスには足湯もあります。足湯につかりながら海をながめると、とても気持ちがいいです。
- ・おすすめは、「砂子商店」です。とてもおいしいホタルイカの加工品を売っています。お店の人が心を込めて作っているからおすすめです。

また、施設や工場等に働いている方々にお話を伺う機会をもつことで、関わっている人々が存在することを理解し、自分が住んでいる寺家校区になお一層愛着をもつことができた。

④ 活動を終えて

子供たちは、校区にある自然事象等から、地域の特長に迫っていった。校区の特長をより知ることができたと同時に、関わる人々の思いや願いを知ることができた。地域について発表する機会をもつことで、収集した地域の情報を分析し、整理することができた。あわせて、地域に対する愛着や地域を大切にしようとする思いをもつきっかけとなったと考える。

(2) 第4学年 総合的な学習の時間「心のバリアフリーを目指して」

地域の高齢者との「あく手のつどい」での交流を通して、相手を尊重する関わり方が大切であることを理解し、様々な人が暮らしやすい「滑川のまち」にするために自分のできることを考える。

① 目指す子供像

様々な立場の人々との交流活動を通して、思いやりの心を育み、ともに助け合って生きていこうとする子供

② 活動の概要



(ホタルイカ発光ショーの見学)



(ホタルイカ加工工場の見学)



(ホタルイカを模して踊る3年生)

校区のおじいちゃん、おばあちゃんと交流する行事「あく手の集い」を開催する。
また、交流活動について保護者・地域にむけて発表する。

③ 子供の反応

「あく手の集い」に来ていただくおじいちゃん、おばあちゃんたちに接する際、留意点や内容について、意見を出し合った。どのようなことに気を付けたらいいのか、どのような内容が喜ばれるのか、子供たちで考えを出し合い、計画を進めていった。礼儀正しく相手に合わせて話したり、ゆっくり行動したりしたらよいという意見が出て、本番当日に生かすことができた。行事後には、学習して分かったことをまとめ、整理し、保護者・地域に発表する機会をもった。

以下は、参加して下さった地域の皆さんの感想である。

- ・数年ぶりの開催であったが、子供たちが中心となって進めていてよかった。
- ・子供たちと「あく手の集い」で一緒に過ごして関わることができて、元気をもたらすことができた。



(「あく手の集い」での交流)



(「あく手の集い」後の)

④ 活動を終えて

実際に話したり、一緒に遊んだりする時間を過ごすために意見を出し合うことで、普段お年寄りに接する機会がない児童にも見通しをもつことができた。保護者・地域に発表する機会をもつことで、自らの思いを振り返り、整理するきっかけとなった。

(3) 第5学年 総合的な学習の時間「持続可能な生活をめざして」

P T A役員や地域の事業主の指導のもと、子供たちが商いの仕組みを調べ、出店体験する起業家教育を通して、社会の仕組みを理解するとともに、自ら企画し、多様な他者と協働しながら、新しい価値を生み出す主体性や創造性、起業家精神等、これからの時代に求められる資質・能力を育成する。

① 目指す子供像

出店体験を通して、社会の仕組みを理解するとともに、自ら企画し、多様な他者と協働しながら、新しい価値を生み出す主体性や創造性、起業家精神等、これからの時代に求められる子供

② 活動の様子

P T A役員等の地域の事業主の指導のもと、子供たちが商いの仕組みを調べ、保護者や地域の皆さんを対象にした店を実際に出店する。出店する際は、P T A特別会計より初期費用を出資し、仕入れや値段決め、コマース、当日の店舗の運営も行

った。

③ 子供の反応

自分が行う商売について一人一人の思いをもち寄り、ハンドメイド作品、射的、駄菓子、フルーツポンチ、フランクフルト、くじ引きの店を出すことになった。それぞれのグループの特色を生かすために、地域で事業をしておられる五人の皆さんにアドバイザーとして参加していただき、値段決め、仕入れ、宣伝等について助言を受け、計画や準備を進めていった。



(値段決めのアドバイスを受ける子供たち)

実際に店やスーパーに出かけて仕入れたり、インターネットで注文して届いた品物を手にしたりしていく中で、出店への意欲が次第に高まっていった。

出店当日、校庭にはたくさんの子供たちや保護者でとても賑わっていた。

- ・私は、フルーツポンチのクリエイターとしてはたきました。いろんな準備をしました。かんぱんを作ったりねだんを決めたりしてじゅんびをしていると、仕事の大変さに気づきました。そして、むかえた当日は、想像よりも大変なことに気がつきました。けれどもそれ以上に買ってくださったお客さんの喜んだ顔を見てうれしい気持ちになりました。



(↑ 店の商品を準備する子供たち)



(↑ 駄菓子屋で接客する子供たち)

④ 活動を終えて

普段は消費者の立場で、お店の商売を見ていた子供たちが、いざ売り手側に立って「もの」や「こと」を売る仕事に従事してみると、思ってもいなかったことに気付くとともに、相手に喜びを与えることで自分の心も温かく豊かになる貴重な経験をした。誰かが誰かを支えていることで成り立っている社会の一員として、将来、自分らしく働く芽が育った体験的な活動であった。

(4) 第6学年 外国語科 台湾高雄市の小学校との交流

学期に1回、台湾の高雄市の小学校とオンラインを使って英語で交流した。交流する

際には、滑川市のよさについて情報を集め、整理分析し、表現していた。

① 目指す子供像

- ・自分が習った英語を使って海外の児童と交流することで、英語を学ぶよさを感じ、英語をさらに学びたいという意欲を高める

② 活動の様子

台湾の高雄市の小学生と一人一台端末を使ってグループによる交流活動を行い、自分の表現したいことをタブレットの画面に映し出して英語で話をする。

③ 子供の反応

事前に高雄市の小学生に紹介したい滑川市のよさを総合的な学習の時間を使って調べる。交流の時間に向けてプレゼンテーションの準備を進めた。

実際に滑川市のよさを紹介する場面で、相手によく伝わっていないようなときには、グーグル翻訳を使って別の表現を探したり、中国語に変換した文章を画面に映して伝えたりしていた。よく聞き取れない場合には、事前に用意したパネルやショートフレーズを使って聞き返したり、確かめたりしていた。

相手の発表を聞く場面では、相手の会話に対して様々なショートフレーズやジェスチャー等で反応していた。自分が話したことに対して、笑顔や「いいね」等の反応をしたり、「in japanese (日本語では)」と切り出し、相手に合わせて日本の様子や生活・文化を伝えたりしていた。



(滑川市の特色を紹介する6年生)

④ 活動を終えて

異文化理解をとおして交流相手と親睦を深めることにつながった。また、相手の反応を通して滑川市のよさを再認識することができた。

3 終わりに

(1) 実践の成果

- ・発信するという目的意識をもつことで、地域の特長やよさを調べようというきっかけにつながり、より深く理解することができた。また、地域のよさを見直したことにより、地域に愛着をもつことにもつながった。
- ・発信したことに反応が返ってくることで、自分や自分たちの活動に自信をもち、さらに活動を発展させていこうとする姿になった。
- ・地域に発信することで、育てたい子供像を学校と地域とが共有することができた。

(2) 今後の課題

- ・次年度以降も、地域の特徴を生かした教科等横断的な視点での教育課程の編成により積極的に取り組む必要がある。
- ・地域の人と目指す方向性を共有してより連携、協力する支援の在り方を考えていく。